



【岡田】 今回の東日本大震災の津波の想像もつかぬ破壊力、そして、何もかも奪い去ってしまった猛威を見るにつけ、練り直しが必要と考える。日頃から、知識と備えを身に付けられるような、訓練の質を高めていくことが大切である。

防災計画の 練り直しは？

岡田議員

町長 必要と 考えている

平時の備えやリアリティにもとづいた訓練を。特に子ども危険予測能力を高めるためには、訓練やシミュレーションを繰り返し行い、おのずと気づき、考え行動できるような育てるものでなければならぬと言われているがどうか。

【町長】 いざという時に子どもたちが判断し行動できる力が必要であり、そのための教育が大切である。大山西小学校が県の防災教育モデル校指定を受け、鳥取大学と連携した防災教育を進めることになった。支援しながらその成果を町内全体に広げていく方策を考えていきたい。



総合防災訓練の様子

英語必修化の 対応は？

岡田議員

教育委員 中学校英語への 移行が課題

【岡田】 今年度から小学校5・6年生での外国語活動が必修化された。

しかし、全国の小学校5・6年生担任教師の約70%が、英語の指導に自信がないという調査結果がある。また、民間会社に業務委託の場合、さまざまな問題が生じていると聞く。本町での状況は。

【教育委員長】 中山小学校と大山西小学校がそれぞれ国

県の拠点校指定を受け、外国語活動の先進的な取り組みを行ってきた。指導計画は学校が作成し、事前に学校・外国語指導助手・委託会社で打ち合わせ、連携が取れている。

【岡田】 中学校との連携が不可欠であるがどんな形で行っているか。

【教育委員長】 小中学校の教員が共通認識のもとで授業を進め、中学校の外国語科の学習にスムーズにつながるようにしたい。

【岡田】 中学校に入ってから、スペルや文法でのつまづきをなくすための指導は

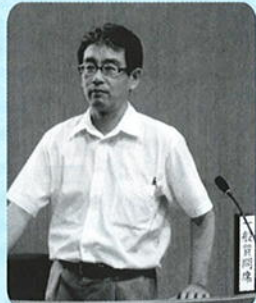
【教育委員長】 中学校の壁と言われている課題。クリアできるよう取り組んでいく。



小学校での英語の授業

【近藤】 少子化が進んでいる。学校現場での影響は。

【教育委員長】 各校で1学年1学級という状況が増えてきた。互いに切磋琢磨する機会が少なくなり、人間関係が固定化し、多様な考え方が育ちにくくなることを心配している。



教育の充実で 少子化対策を

近藤議員

町長 振興策を 町民にPR

【近藤】 県平均に比べ、学習塾の利用が少ない。学校での補習授業の実施や、塾の利用者に補助金を交付するなど、学力向上のための施策は検討できないか。

【教育委員長】 学校の授業が第一。授業の充実と家庭学習の定着が先決。

【近藤】 定住策として教育振興をはかるのなら、他の市町村と教育水準が同程度では魅力がない。魅力づくりとPRは。

【町長】 町民が町内で子育てしたいと思えるような、町民向けのPRも大切と考える。

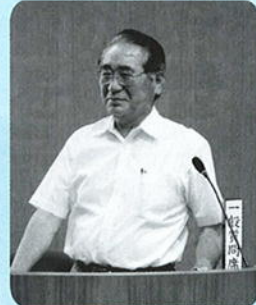


中学校のグループ学習

最高責任者の 自覚を

野口議員

町長 気をつけて 対応する



【野口】 3月議会閉会后、サッカー場関係予算などの否決を受け、町長は「否決した議員は責任の重さを自覚しているだろうか。否決する以上は、サッカー場整備計画を出してもらいたい」とマスコミの取材に答えた。

新聞にも掲載されており、テレビのニュースでは町長自身が述べていた。

町長の職務として、「施設の管理などのみずからの責任において誠実に実行しなければならぬ」と定めている地方自治法にそむいている。

町長は非を認めながら発展に向けて考えていく姿勢、最高責任者としての自覚をもっと高めてもらいたい。

【町長】 マスコミの報道などによって、町民に心配をかけた。マスコミ対応は、今後も気をつけたいと思う。

←日本海新聞
平成23年3月26日掲載

会議で、町営の休養施設「山香荘」(大山町)の改修にサッカーグラウンド2面などを整備する経費を盛り込んだ。来年度の特別会計予算案など2議案を反対。大山西議員は「短期間で2千人を超える反対署名が集まった。住民の理解を得る必要がある」と述べた。町議会は、サッカーグラウンドなどの整備に辺地を活用するために必要だった山香荘周辺の活性化計画案も否決した。

吉原美智恵議員は、町長を自覚しているのだ